

「バイオものづくり革命推進事業」プロジェクトに関する意見

株式会社ちとせ研究所 殿

令和7年10月31日

産業構造審議会 商務流通情報分科会 バイオ小委員会

バイオものづくり革命推進ワーキンググループ

本ワーキンググループで実施した議論を踏まえ、貴社におかれては、プロジェクト推進に当たって以下の点に留意のうえ、今後のモニタリングにおいて、その対応について報告されたい。

- ・ 下水汚泥の調達場所や最終製品、オフテイカーに関する情報が不明確であり、事業戦略の蓋然性が著しく低下していると考えられる。これらの要素を明確にし、ターゲットや取組、事業実施場所の取捨選択を行った上で、コスト及び収益構造、並びに KGI・KPI の整合性が取れた実施計画書及び事業戦略ビジョンを早急に提示すること。
- ・ 実証場所の確保や規制当局との協議を戦略的に進めるため、想定している国内の実証場所における下水処理及び汚泥利用に関する規制対応について、各実証場所の課題とその進捗を詳細に整理し、これらのロードマップを検討した上で、実施計画書及び事業戦略ビジョンに反映すること。なお、これらの整理・検討が困難な実証場所は実施計画から除外すること。
- ・ 国内での実証が困難であると判断される場合には、国外の各実証場所において同様の検討を行い、国内産業への裨益について定量的な試算を実施し、これらを反映した実施計画書及び事業戦略ビジョンを提示すること。
- ・ 新たな事業戦略ビジョン及び事業継続の意思について、本ワーキンググループにおいて再度説明すること。
- ・ 「MATSURI イニシアチブ」を通して多くの企業、団体を巻き込み、LCA の検討を進めていることは評価される。オープンな形で LCA の検討を進める中で、顧客への価値訴求のための LCA 活用方法について具体的な検討を進めること。また、関連事業者が増えていく中で優位なポジションを確保できるよう、どこまでの技術をオープンにするのか、ライセンス化するのか、完全秘匿とするのか、この考え方を早期に具現化した上で、ISO における国際標準化を含めた LCA に関するルール形成のロードマップを検討し、実施計画書及び事業戦略ビジョンに反映すること。加えて、オープン＆クローズ戦略を検討する担当部局・責任者・担当者を設置し、全社的な標準化戦略の検討・実行の体制整備も進めること。
- ・ 「バイオものづくり革命推進事業」プロジェクトの円滑な推進に際しての懸念点とならぬよう、社としての財務体質等の強化を進めること。

以上